
9. 萩ノ島かやぶき家環状集落の紹介・保全及び活用

萩ノ島わらじ会
(新潟県刈羽郡高柳町)

I. 活動の目的

萩ノ島集落は、中央に田んぼが広がり、それをとり囲むように、中門造りと言われる茅葺の曲がり家が南又は東向きに方向を揃えて環状に展開している。

田、畑、池、柿の木、神社、墓、背後の山林と茅葺の曲がり家が密接に景観に反映して、日本の農山村の原風景を保っており、これを地域外に紹介しながら、茅葺家の住人、地域内外の人々が協働して保全活動を推進する。

II. 活動の背景・内容

1. 背景

明治後期には、91戸の集落であったが、その後、減少の途を辿り、平成4年度末には43戸となってしまった。

この過程の中で、茅葺自体も姿を消し、20戸程が残るだけとなって、極めて厳しい状況となっていた。

昭和63年に発足した「萩ノ島わらじ会」は、環状茅葺集落の紹介、イルミネーション等明りイベントの実施、昔なつかし遊びの復活・伝承、神社御神木の大縄づくり、ホテル鑑賞案内、他地域の活動グループとの交流などなど、地道に地域文化の見直し、伝承・保全、活性化に取り組んで来ていた。

更に、平成4年度に町から、体験かやぶきの家を2棟整備してもらい、交流の進展に伴って集落全体が第三者から高く評価され、地域の人々の意識が一段と高まる中で、萩ノ島わらじ会と一緒に、維持・補修が大変な茅葺住家の支援を何とかしなければとの機運が盛り上がった。

2. 方法

茅葺家の保全は、文化財的役割のみにウエートを置いて取り組むのではなく、生き生きとして、充実した生活の場であることが基本であり、地域の人々の自助努力を核に、地域内外のコミュニティを活発にすることで、「相互理解の補修」をめざした。



萩ノ島の茅葺家

1) 茅葺屋根の補修・保全作業について

・ 4月16日～23日

茅葺家の各世帯と協議し、補修の方法及び規模、スケジュール等について方針を定めた。

・ 5月1日～8日

町内、塩沢地区より「茅」を60シメ購入し、荻ノ島集落入り口の共同車庫にストック。

・ 6月13日～7月25日

7戸について、助成対象分・延べ21日、各戸自己追加分・延べ20日、茅葺職人をお願いして実施した。



茅葺屋根の補修作業

2) 茅葺家・村を語る集い

・ 7月3日

長岡市「荻ノ島かやぶき友の会」と集いを実施した。参加者、約35名。

・ 7月23日

佐渡・羽茂町「はもちみらい塾」と集いを実施した。参加者、約40名。

3) 紹介リーフレット作成

・ 5月22日～6月12日

全国茅葺集落の勉強会を実施した。

・ 8月28日～2月20日

紹介パンフレット検討会を実施した。

・ 3月31日

紹介パンフレット納品（34cm×20cm、四ツ折、3,000部）

III. 活動から得た結論及び考察、今後の課題

今回の助成事業により、実際に、具体的に、第三者の「茅葺評価」にもとづいて、補修支援が実施できた事は、大きな成果であった。

今まで、集落内では、「見すばらしいもの」、「やっかいなもの」と思われていた「茅葺」に少し自信も生まれ、茅葺に住んでいる人々に地域内でも応援しようという連帯感が感じられるようになって来たことと共に、その支援を素直に喜んで受けてくれた。

地域の外から、「やれ貴重な文化財だから！ 景観だから！ 地元は保全しなければ…！！」と言われても、反発しか生まれないと思われるが、住んでいる人々が、自分の生活の場として、自覚しながら、取り組むことが大切であると強く感じた。

今後の課題として、茅葺環状集落の保全は、地元のみでは限界があり、更に地域外の方々の広い理解を得るような息の長い「紹介活動」が必要であり、保全のためのコミュニティ協働基金、全国ネットワークが不可欠である。

